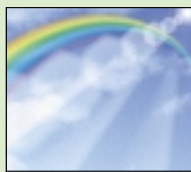


ぎふ地域の絆づくり 支援センターだより

地域で活発な活動団体を紹介します！



第11号
平成28年12月発行

清流の国ぎふ

岐阜県環境生活部環境生活政策課
ぎふ地域の絆づくり支援センター
〒500-8570
岐阜市数田南2-1-1（県庁6階）
電話 058-272-8199



19 特定非営利活動法人 まめに暮らそまい会

事務局：〒509-8231 恵那市中野方町2339-13 理事長：井戸 茂利夫 会員数：正会員 53名・賛助会員 263名
(ふれあいセンターまめの木内)

地域の概要

岐阜県南東部に位置する恵那市は13地域からなり、中野方はその最北端にある。同地域には日本の棚田百選に選ばれた「坂折棚田」や生産量日本一を目指している「えな笠置山栗園」が広がる笠置山などがある。世帯数は544戸、人口1,615人（住民基本台帳 平成28年11月1日現在）で、現在の高齢化率は39%強と高く、少子高齢化が進んでいる。

現在に至るまでの経緯

●発足のきっかけ

平成9年に十数名の仕事を抱えた主婦たちが、「いずれ、親の介護が必要になったときのために」と、公民館講座で介護教室に参加したことがきっかけとなり福祉活動を開始。今では地域の総合的な福祉を担うまでに発展している。

●活動の変遷

○平成12年

- ・独居の方に対する見守り、声かけの活動を行う「ももの会」を発足。
- ・配食サービスグループ「ささゆり会」に参加。

○平成15年

- ・岐阜県が行う「ふるさと福祉村（福社区）調査研究事業」のモデル地域となり、「まめに暮らせて・わくわく人生・みんなで支えあうまち」をスローガンに、新たに「まめに暮らそまい会」を発足。
- ・地域で抱えている課題を導きだし、今後の活動に反映させるため、中野方地域全戸にアンケートを実施。その結果を踏まえ、地域住民に当会の主旨を知ってもらうため、また、支え合いの意識と福祉活動の大切さを広めるため広報紙を発行。

○平成16年

- ・「ふるさと福祉村（まめに暮らそまい会）」として新しく設立。
- ・研修を重ね、高齢者と子どもの交流、支え合いマップづくりを進める。

○平成17年

- ・「中野方まちづくり委員会」が発足し、その中の「ふるさと福祉村部会」を構成する団体の一つとして位置づけられる。
- ・学習療法士の資格を取得し、認知症予防のために脳のいきいき健康教室（まめくら学校）を開校。
- ・子育て広場、春休みと夏休みの親子教室、各種講座を実施。

○平成20年

- ・「支え合いマップづくり」は、防災マップとしても活用できるため、中野方自治連合会（現：中野方自治振興会）と共用して活用するようになる。

○平成23年

- ・「誰もが生涯安心して暮らせるまちづくり」を推進するため、「まめに暮らそまい会」のNPO法人化に向け、事業内容や方向性について地域内にアンケートを実施。

○平成24年3月

- ・「NPO法人まめに暮らそまい会」を設立。そして、新規事業「おきもり（当地域では農作業を互いに助け合うことをこう呼んでいた。）送迎（運営団体が中野方地域協議会から移行）」、「子育て支援」、「家事サポート」、「お弁当宅配」、「ふれあいサロン」を加え活動を実施。



平成17年 支え合いマップづくり会議



見守り事業情報交換会